

吉野材で生活用品を

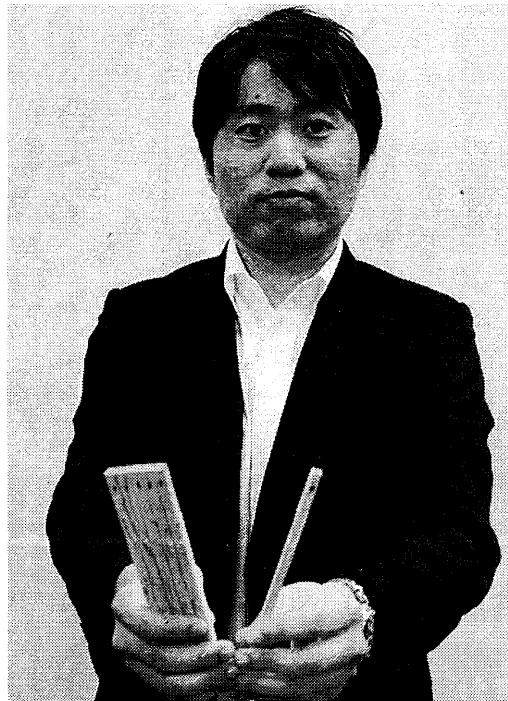
デザイン
コンペ発表

最優秀賞に吉富さん

東京

吉野の木材を使って生活用品のデザイン開発をすることで、間伐材の利用促進と林業の活性化、森林保全を目指す「吉野材を使った『暮らしの道具』デザインコンペ」(県主催、南都銀行協力)の最終審査会・発表会が13日、東京都港区の森カフェで開催された。最優秀賞に東京都在住のプロダクトデザイナー吉富寛基さん(30)の作品「割り鉛筆」が選ばれた。

応募総数219点から2次審査を通過した15作品の作者がプレゼンテーションを行い、最終審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞4点



最優秀賞『割り鉛筆』を持つ作者の吉富寛基さん=13日、東京都港区の森カフェ

が選ばれた。吉野地域の森林保全と地域産業活性化に取り組む「Yoshino Heartプロジェクト」の一環。南都銀行から賞金(優秀賞Ⅱ100万円、優秀賞Ⅰ各15万円)が贈られた。「割り鉛筆」は、ス

ギ材を使った6本の鉛筆が割り箸のようにつながり1本ずつ割って使用する。審査委員長の下川一哉日経デザイン編集長は「デザイン性が高く、吉野材の性格や魅力をうまく取り入れた」と講評。吉富さんは「割り箸は日本

の美しい文化で、端材を活用する環境に優しい道具。商品化することで吉野材に光が当たればうれしい」と喜びを語った。吉野材のユーザー拡大をめざし、受賞作品は商品化が検討される。